

令和6年度 天草市外国語科アンケート 集計結果報告

令和7年3月13日

天草市教育委員会

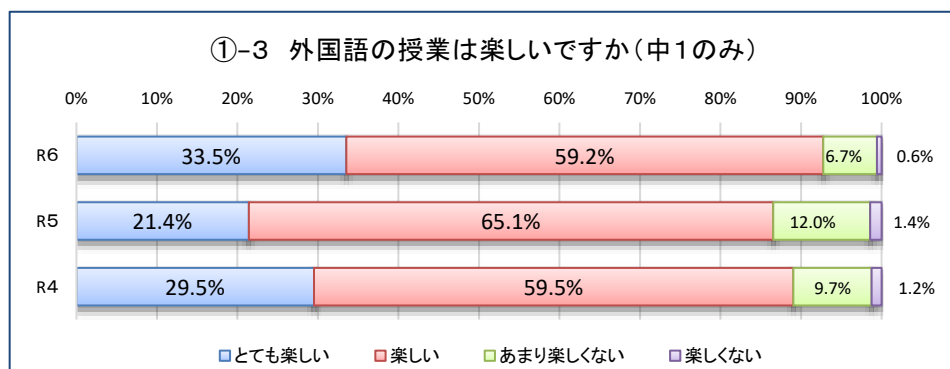
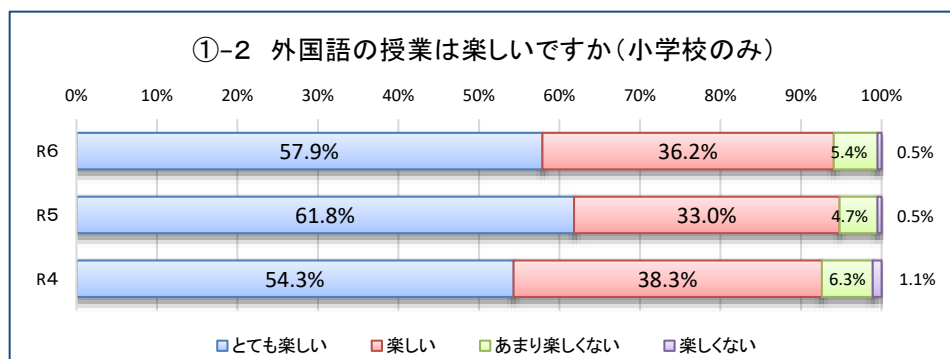
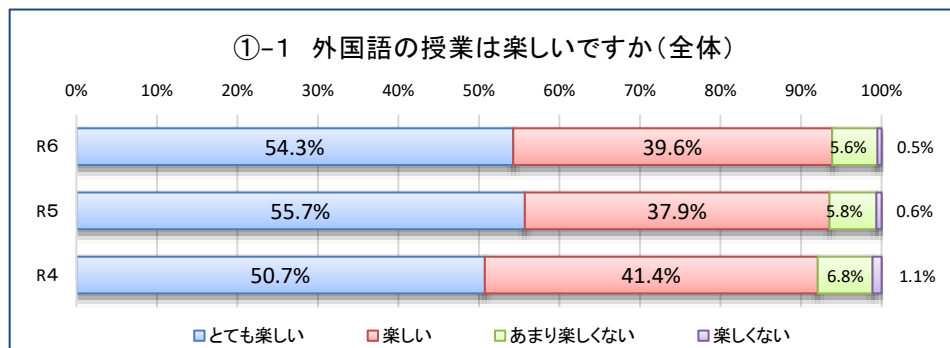
- 1 目 的 天草市の小・中学校における外国語科の状況を把握し、今後の天草市の外国語教育推進の資料とするため
- 2 期 間 令和6年11月7日～12月16日
- 3 対 象 天草市内小学校1年生～6年生及び天草市内中学校1年生（計3526人）
- 4 その他 （1）小学校においては、教育課程特例校の指定を受けているため、本年度の各校の調査結果について学校ホームページでの公表をお願いします。
（2）本結果については、各校において職員間で情報共有をお願いします。
（復講、回覧等）

～ Sakitsu Village in Amakusa ～

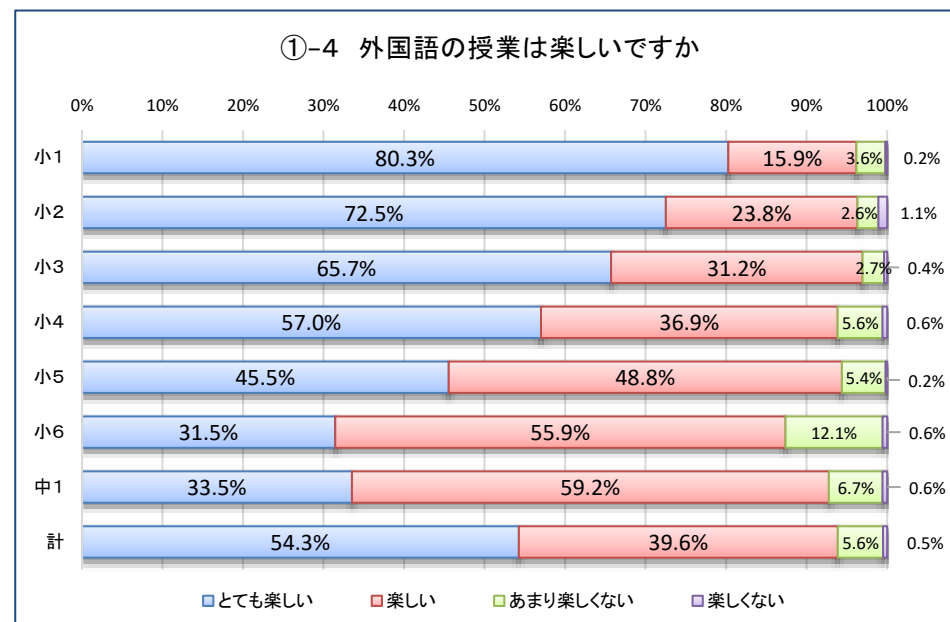


① 外国語の授業は楽しいですか

【経年変化】



【学年別】



①-1 から、**93.9%**の児童生徒が「**楽しい**」と回答しており、昨年度の 93.6%より上がっている。年々、「楽しい」と感じる児童生徒は増加傾向にある。

①-4 から、学年が上がるにつれ「とても楽しい」と回答する割合が低くなる傾向にある。「**楽しくない**」と回答している児童生徒が、**小6**において **12.7%**おり、**中1**において **7.3%**いる。

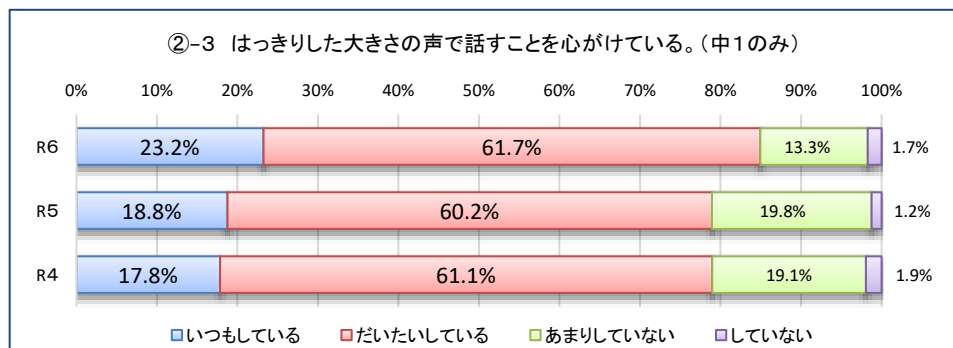
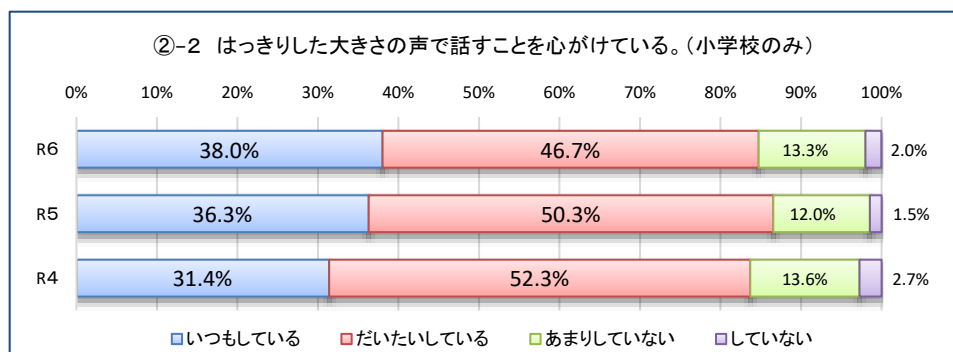
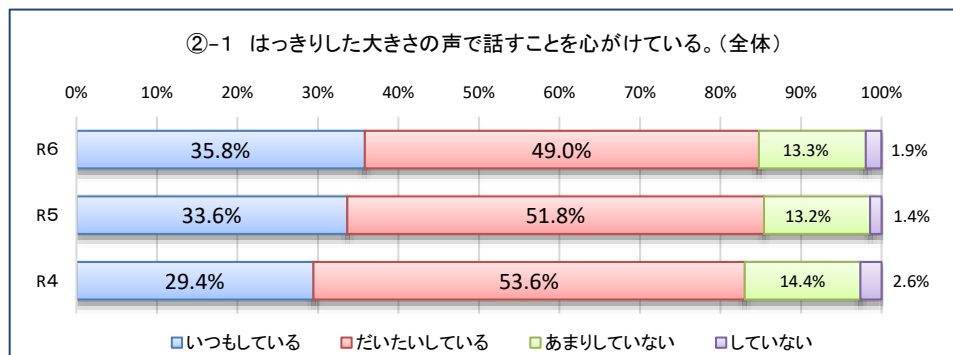
①-2 から、小学校全体としては **94.1%**の児童が「楽しい」と感じているが、昨年度より若干割合が減少している。

①-3 から、中1において **92.7%**の生徒が「楽しい」と感じており、昨年度より大幅に増加した。

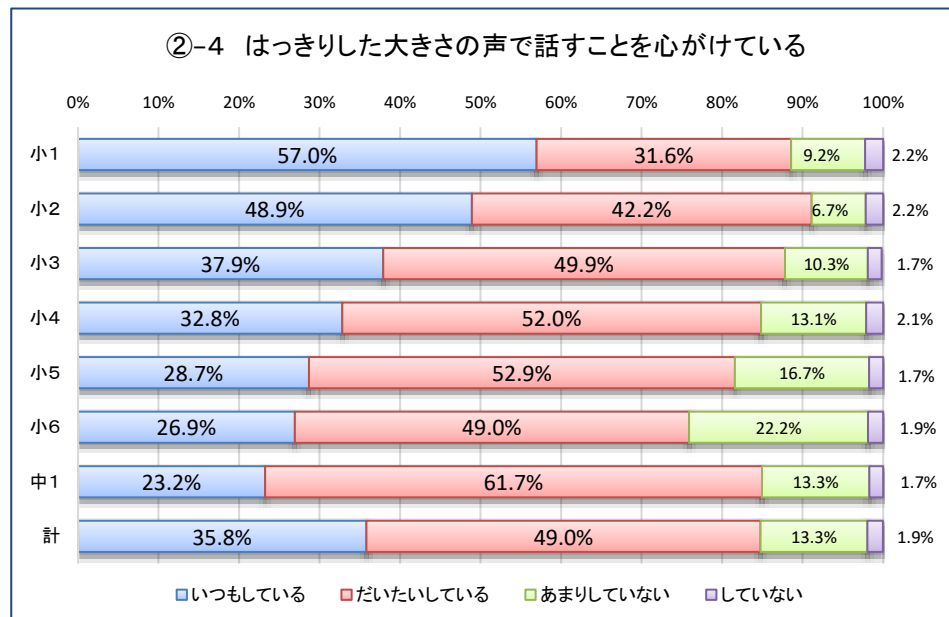
これまで各学校において、小中連携を深め、**学びの連続性**を大切に**授業改善**に取り組んできた一定の成果が見られる。今後、更に小学校段階や中学校段階など**それぞれの学びのステージにおける「共通点」や「相違点」**を理解したうえでの、小中連携した授業改善が必要である。

② はっきりした大きさの声で話すことを心がけていますか (クリアボイス)

【経年変化】



【学年別】



外国語科4つのポイントの一つ「クリアボイス」に関する項目である。

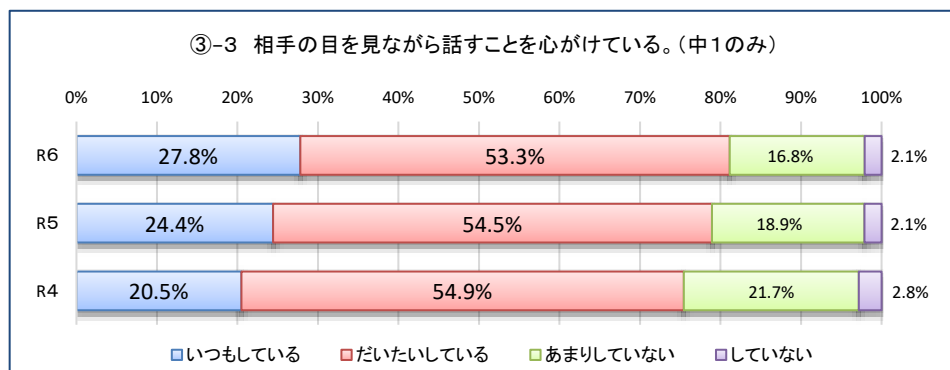
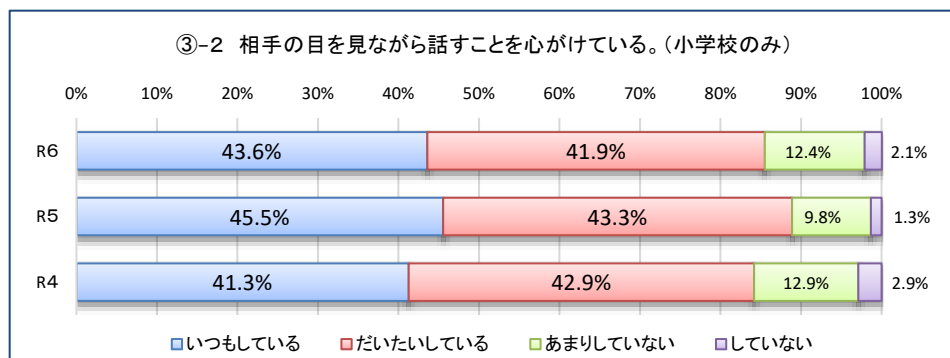
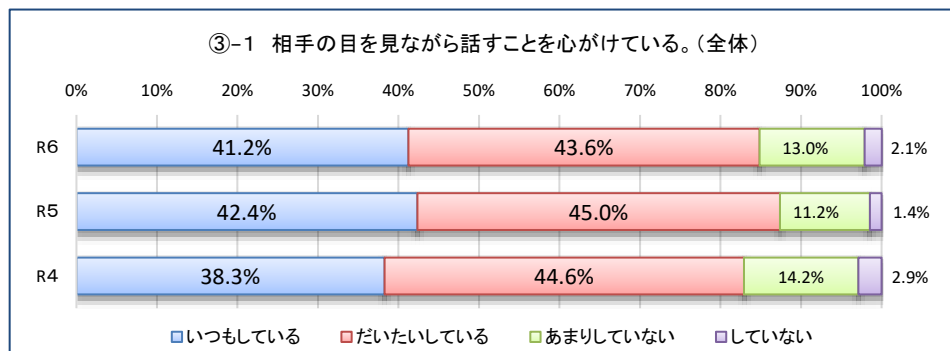
②-1 から、全体としては、**85.0%程度**の児童生徒が意識していることが分かる。肯定的な回答をする児童生徒の割合が昨年度より若干減少している。
「実際に英語を用いた言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する」という外国語科の目標から、言語活動（特に、話すこと）の充実を図る必要がある。相手意識を持たせる目的・場面・状況の設定、活動の工夫、そして適切な教師の介入（中間指導等）により、児童生徒が考えを共有したり、考えを深めたりすること等を通して、相手を意識した話し方についても定着を図っていく必要がある。

②-2、②-3 から、昨年度と比較して、肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小学校全体としては若干減少しており、中1においては増加している。

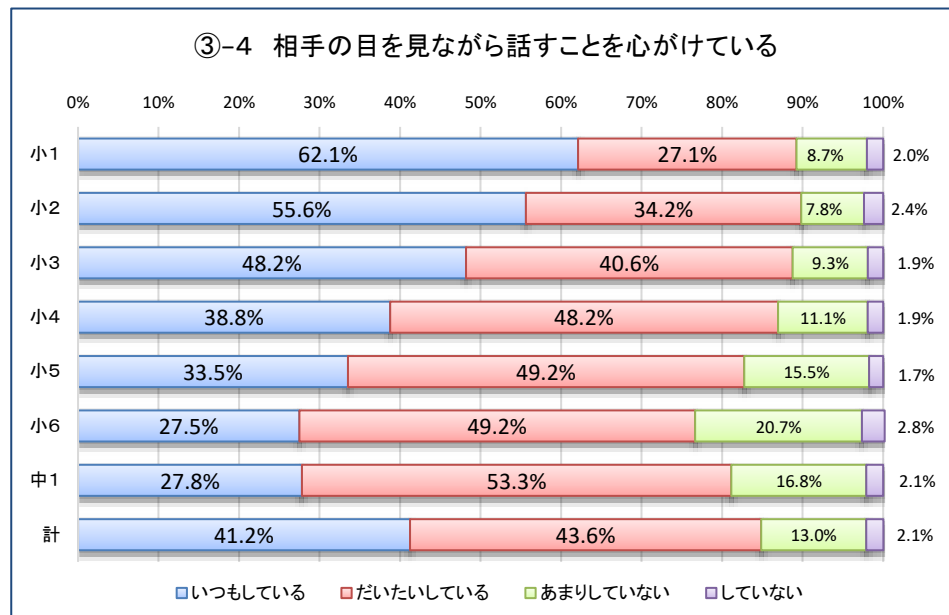
相手を意識した声の大きさや伝え方は、外国語に限らず**日常生活の中でコミュニケーションを行う上で大切な要素**である。他教科や様々な活動においても意識できるよう学校全体で取り組むことが必要である。

③ 相手の目を見ながら話すことを心がけていますか。 (アイコンタクト)

【経年変化】



【学年別】



外国語科4つのポイントの一つ「アイコンタクト」に関する項目である。

③-1 から、全体としては、**85.0%程度**の児童生徒が意識していることが分かる。肯定的な回答をする児童生徒は年々増加していたものの、今年度は昨年度より若干減少している。

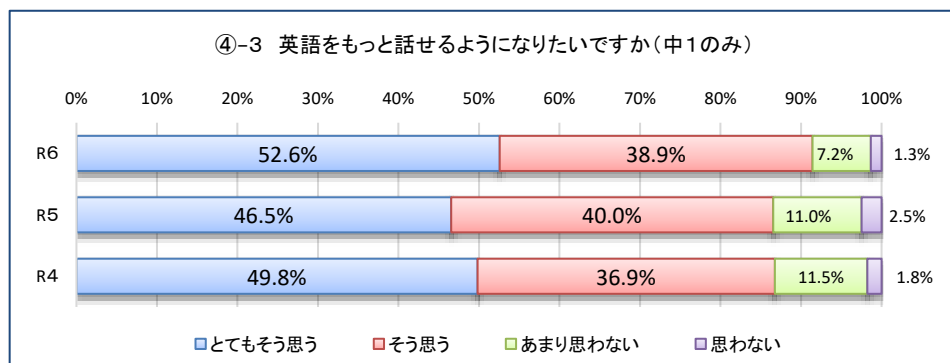
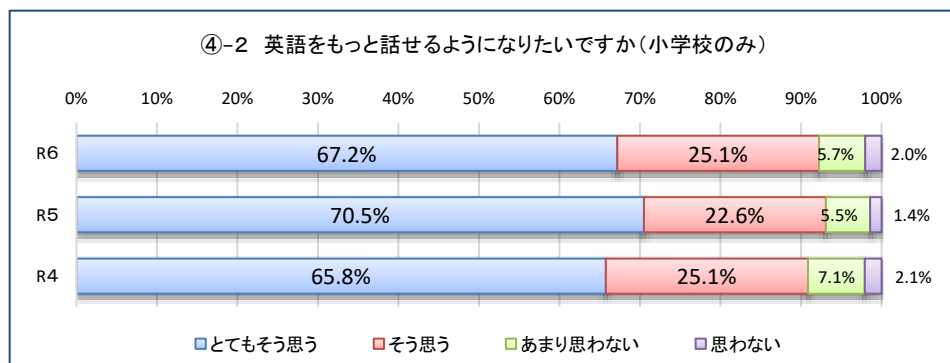
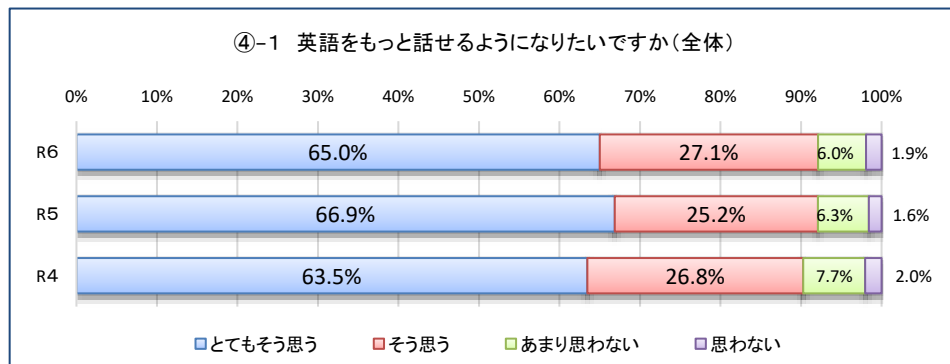
③-2、③-3 から、昨年度と比較して、肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小学校全体としては若干減少しており、中1においては増加している。

小中連携の一定の成果が見られるものの、小中ともに更なる充実が求められる。外国語の学習においては、実際に**言語活動を行う時間と量を十分に確保**できるよう、学習活動を仕組み、適切な教師の介入（中間指導等）を行うことが肝要である。

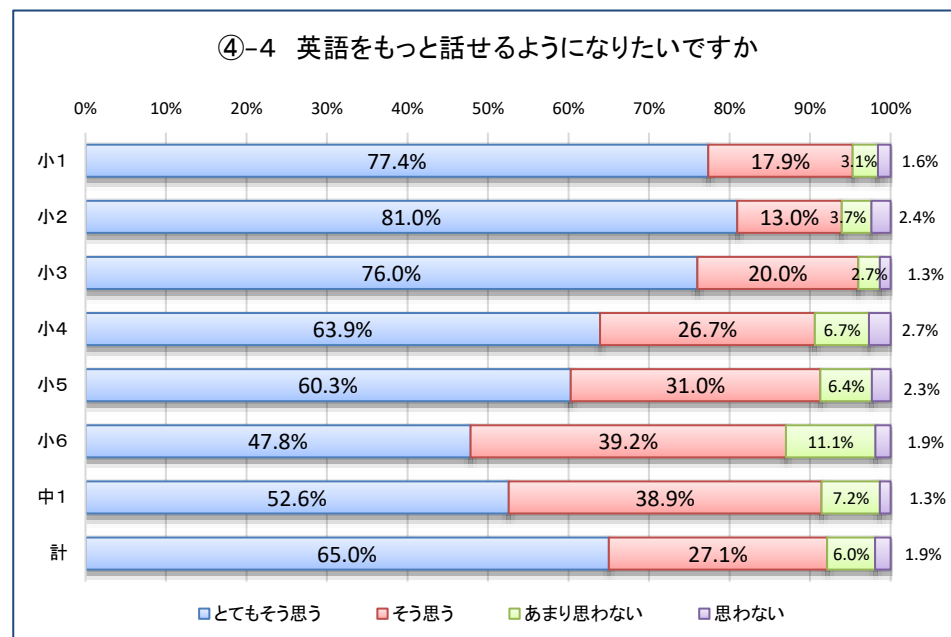
教室において安心して話せる**支持的風土の醸成**を基盤として、「相手意識」や「目的意識」をもち、「ほんもの」の「コミュニケーションの楽しさや意義」が感じられる**言語活動設定の工夫と充実を通して**、児童生徒にコミュニケーションを図る資質・能力を育成していきたい。

④ 英語をもっと話せるようになりたいですか。

【経年変化】



【学年別】



④-1 から、昨年度同様、92.1%の児童生徒が「英語をもっと話せるようになりたい」と感じている。

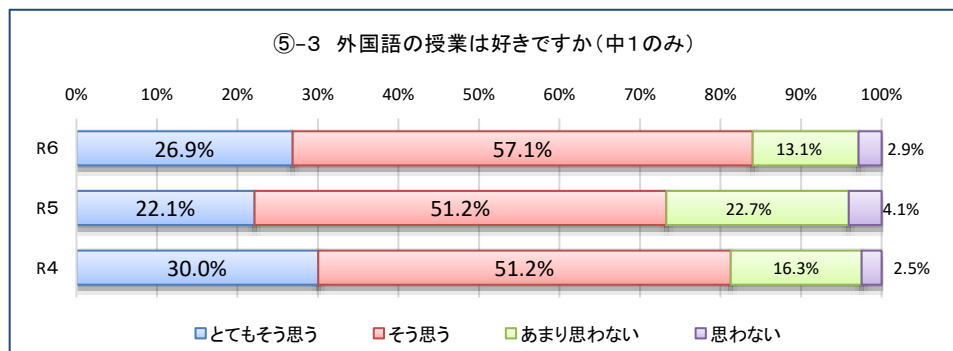
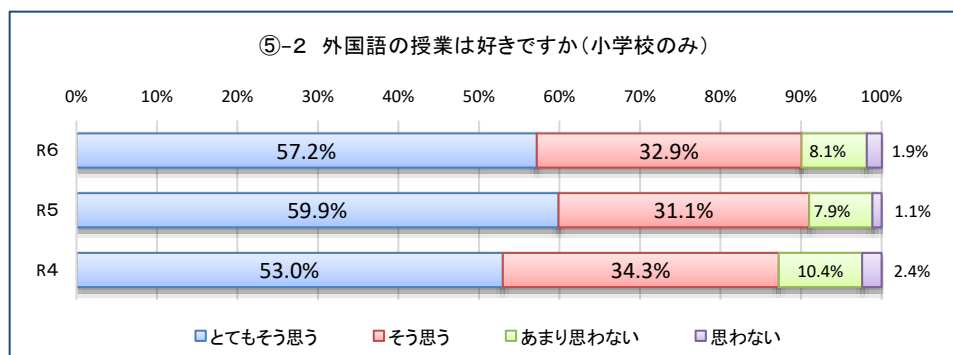
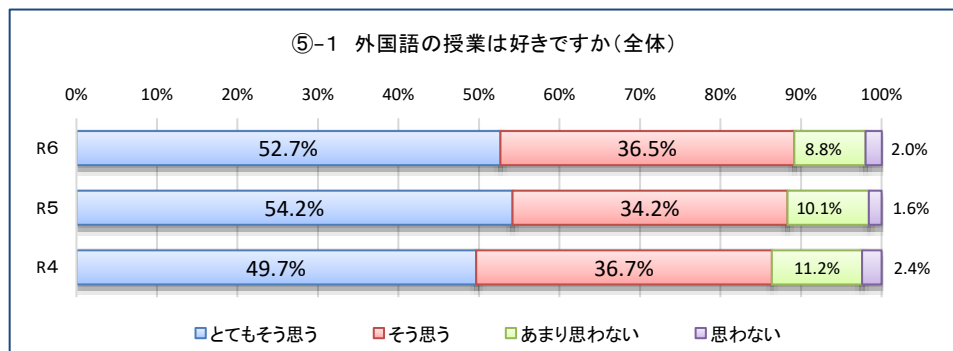
④-2、④-3 から、小学校において、毎年 90%以上の児童が肯定的な回答をするなど意欲が高い傾向が続いており、中1においては、意欲の向上が顕著で、今年度初めて 90%を超えた。

この意欲を持続させ、更に向上させられるよう、必然性（目的意識）のある言語活動を設定したり、ALTの更なる授業参加と協働を進めたりするなど、更なる授業改善を進めていきたい。

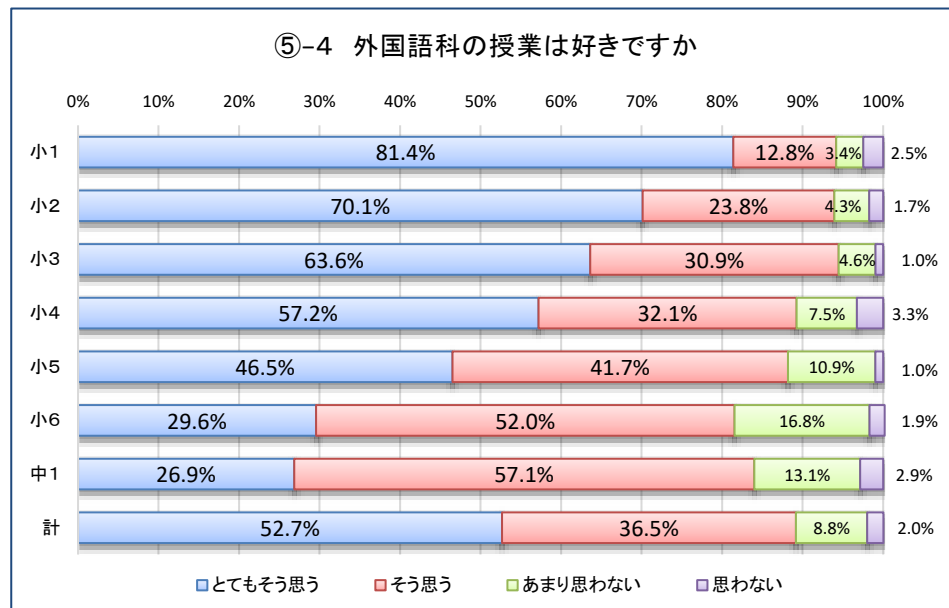
児童生徒が言語活動に主体的に取り組むことが外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける上で不可欠である。「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、児童生徒に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上する。実際に英語を話すことの良さなどを伝え、生涯にわたり英語を学び続ける態度を身につけさせたい。

⑤ 外国語の授業は好きですか。

【経年変化】



【学年別】



⑤-1 から、「外国語の授業が好き」と回答した児童生徒が **89.2%**であり、同時に**年々増えている**ことが分かる。

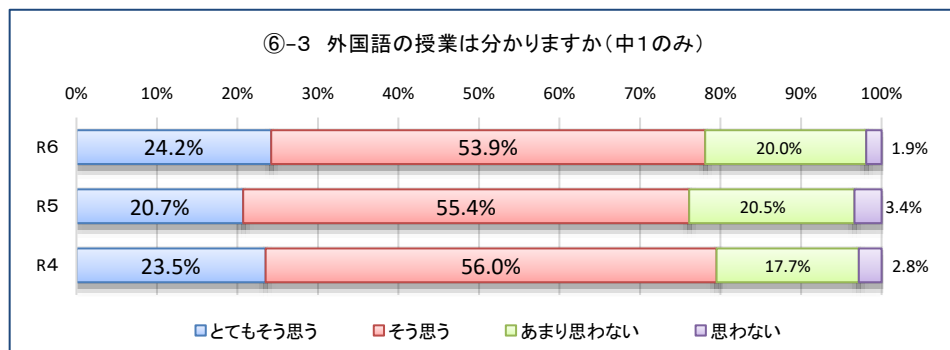
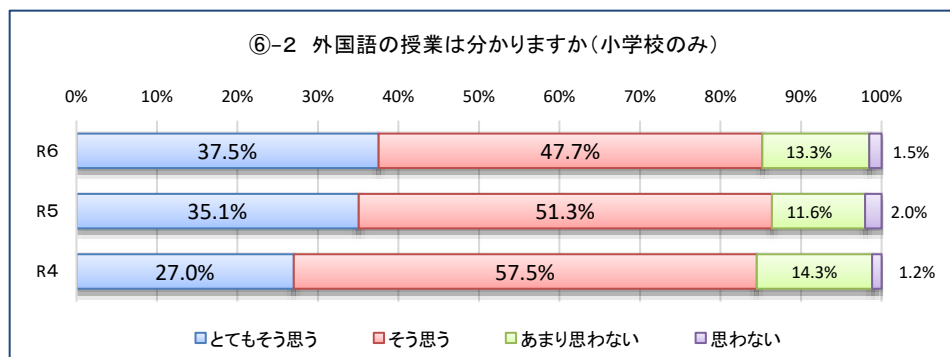
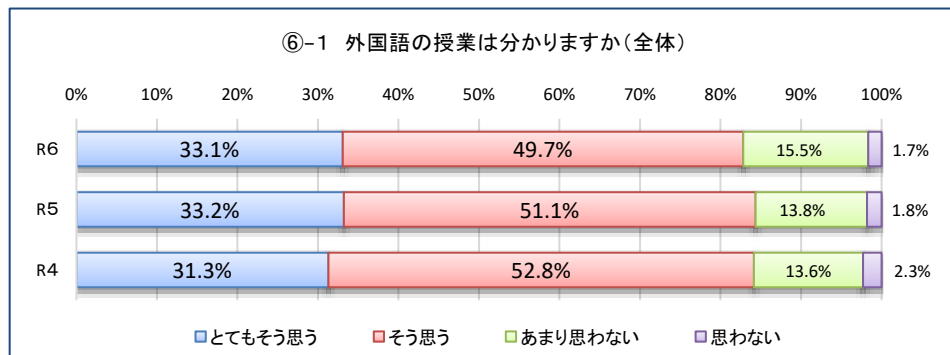
⑤-2 から、小学校において今年度、若干減少したものの、**90%以上の児童**が肯定的な回答をしていることが分かる。

⑤-4 から、学年別に見ると、**小6**が昨年の 88.1%から今年は 81.6%と **6.5%減少**している。**中1**は昨年の 73.3%から今年は 84.0%と **10.7%増加**している。

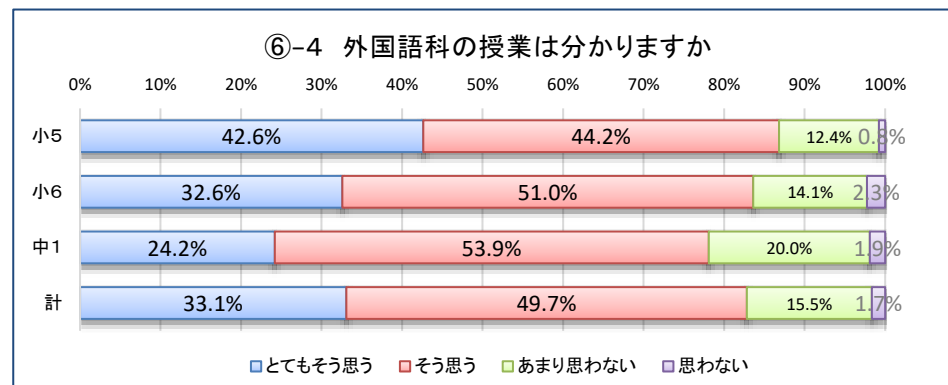
英語の授業が「好き」という意識を高めるには、児童生徒が「**コミュニケーションの楽しさや意義**」を実感できるとともに、「**わかる**」「**できる**」を実感できる授業実践が必要である。必然性（目的意識）のある言語活動を中心に、子ども達が必要性を自覚し、目的意識をもって練習に取り組めることが肝要である。さらに、各単元における**学習内容の定着**を確かめ、**振り返り**を通して、理解や習得を実感させ、達成感・充実感を味わえるよう、授業の充実を図ってほしい。

⑥ 外国語の授業は分かりますか。

【経年変化】



【学年別】



⑥-1の全体結果から、**82.8%**の児童生徒が「分かる」と回答している。同時に、**17.2%**の児童生徒は「分からない」と回答していることになる。

⑥-2から、**小学校**において、「分かる」と回答している児童が年々増えていたが、今年度**若干減少**している。

⑥-3から、**中学校1年生**において、「分かる」と回答している生徒が昨年度減少したが、今年度は**78.1%**に**増加**している。

児童生徒が「分かる・できる」と実感を持った学習をするためには、**長期的見通しを持った取組**が必要である。単元構成の工夫、帯活動の工夫、CAN-D0の設定、言語活動の工夫などの授業づくりが重要となる。特に、**言語活動を授業の中心に据え**、児童生徒が英語を使って聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの言語活動を行う**時間と量を十分に確保**していただきたい。

外国語の授業に対し、**17.2%の児童生徒が、困り感を持っている**ことを真摯に受け止め、一人一人の学びに応じた授業実践をお願いしたい。

誰一人取り残すことなく、すべての児童生徒に「**コミュニケーションを図る(基礎となる)資質・能力**」を育成することを目指し、今後も継続した授業改善の取組を進めていきたい。